

教師支援プログラムとしてのアサーション・トレーニングの開発とその評価方法の探究

Development and Evaluation of Assertion Training Program for Teachers

プロジェクト代表者：沢崎俊之（教育学部 教授）

Sawazaki, Toshiyuki (Faculty of Education, Professor)

1 目的

現在、「心の教育」ということがさかんに言われ、学校教育場面でさまざまな取り組みがなされている。さわやかな自己主張をめざしたアサーション・トレーニングの学校教育場面への応用もその一つである。本研究の目的は、教師向けのアサーション・トレーニングプログラムを開発とその評価方法を探求することである。

このような研究の着想にいたった背景は、アサーション・トレーニングの学校教育への導入が一過性のブームで終わることなく、着実に学校教育に根付き、お互いがよい関係になるには今、何を研究することが必要か、という問題関心からである。

教師のためのプログラム開発と評価方法の探求の意義は以下の3点である。アサーション・トレーニングの学校教育場面への応用は児童・生徒にたいする予防的・開発的援助としての重要性が指摘されているところである（沢崎、2001、沢崎・山口、2003）。ところが、アサーション・トレーニングは人間の尊厳や自発性に基礎をおいており、またトレーニングの質を維持するためにもトレーナーの訓練が不可欠であり、安易に学校教育に導入されると形骸化のおそれさえある。典型的には教師が攻撃的にアサーションを子どもたちに教え、それで事足りると思うことなどが生じかねない。まずは、教師が学ぶのに適したプログラムを開発し、教師自身がアサーション・トレーニングを受けた上で、児童・生徒へのアプローチをするシステムを確立することが急務である。

第2に教師向けのアサーション・トレーニングプログラムが児童・生徒に対する心理教育的指導・援助サービスを提供する教師の力量の向上に資すると考えられる。この点は従来の学校カウンセリング研修を補完充実させるものとして機能することが期待される。

第3にトレーニングの評価に関しても、短期的な評価だけでなく、学級経営や生徒指導への影響なども加味した多面的な評価方法を開発することで、トレーニングプログラムが実践から遊離することを未然に防止できると考えられる。

2. 方法

平成18年度の研究は、埼玉大学公開講座「教師のためのアサーション・トレーニング入門」に組み込んだ形で行っている。平成18年度埼玉大学公開講座「教師のためのアサーション・トレーニング入門」の実施状況は以下のとおりである。

- ・本講座 8月8日（火）、8月9日（水）、8月10日（木） 10時から17時
- ・フォローアップセッション 1回目 10月7日（土） 14時から17時
2回目 11月25日（土） 14時から17時

3回目 1月13日(土) 14時から17時

・参加者 小学校教員5名、中学校教員6名、高等学校教員8名、計19名

3. 結果

受講生の振り返りや現場に戻っての実践報告の概要は『平成18年度埼玉大学公開講座「教師のためのアサーション・トレーニング入門」体験報告集』(2007)に収められている。

(1) 教師のためのアサーション・トレーニングプログラム開発

教師が学ぶのに適したアサーション・トレーニングプログラム開発に関しては、過去の公開講座の成果を踏まえた形で実施した。今年度も、3日間の集中的な講座に加え、本講座終了後に3回、フォローアップのセッションを組み込んだ。フォローアップのセッションを組み込み、その内容を工夫したところが本プログラムの大きな特徴である。

第1回のフォローアップ(10/7)では、学校現場に戻って日々の活動に追われがちな受講者に、自らの実践を振り返る機会を提供するとともに、アサーションを自分のものとする方法として「アサーションという言葉を自分の体験を結びつけて理解を深めていくことの重要性」を伝えた。それによって、講座で学んだ「アサーション」の概念を“一応勉強して知ってはいるが、自分の実践とはあまり関係のない知識”としてしまわれることなく、「生きた知識」として活用する可能性が増したと考えられる。

2回目(11/25)は、日々の実践活動の振り返りと本講座で行ったRCRT(教師が児童・生徒をどのような認知枠組みでみているのかを明らかにするテスト)の分析結果のフィードバックを行った。本講座の「ものの見方・考え方のアサーション」のセッションで、自分自身の「信念や思い込み」を検討する機会を持ったが、このフォローアップセッションでは、さらに一歩進めて、教師として子どもたちとかかわるなかでの、自分のものの見方・考え方と向き合い、自分自身の指導法の再検討の機会となったと考えられる。

3回目(1/13)は、冬休みを含めての自分の活動の振り返りと、体験報告集のレポートの内容についてのディスカッションと、フォローアップを含めた全体のまとめを行った。

(2) 教師向けのアサーション・トレーニングプログラムの評価方法

プログラムの評価に関しては、体験報告集に報告されている受講者のレポートを素材として質的な分析を行っている段階である。この方向の研究は、新井による修士論文によって、さらに発展した形で研究中である。次年度は数量的な分析も視野に入れる予定である。

[引用文献]

・ 沢崎俊之 「心理教育とは何か」 『埼玉教育』(埼玉県立総合教育センター)

55巻5号、6-9頁. 2001年.

・ 沢崎俊之、山口明代 「ある小学校でのアサーション・トレーニングの試みとその意義」 『埼玉大学紀要教育学部(教育科学)』第52巻 1号、81-89頁. 2003年

沢崎俊之 「心の健康とその育成 - アサーションの観点から -」 『教育さいたま』

・ 埼玉大学教育学部教育心理カウンセリング講座 『平成18年度埼玉大学公開講座「教師のためのアサーション・トレーニング入門」体験報告集』 33頁. 2007年